

特集

すべての人が読書を楽しむために

—図書館の障害者サービス—

1月20日、京都ノートルダム女子大学で「すべての人に読書の機会を～バリアフリーの視点で作られた本の世界～」と題した講演会があり、けやきメンバーが聴講しました。講演会では視覚障害者をはじめとする読書が困難な人に対して、今、どのようなサービスが提供されているのか、今後望まれることは何か、知ることができました。今号では、この講演会のコーディネーターで同大学教授の岩崎れいさんに寄稿いただくとともに、視覚障害者の吉川典雄さんに図書館利用の現状についてお聞きしました。

言語上のマイノリティに対するサービスと同様、特別なニーズに応えるサービスと考えることができます。ここで重要なのは、特別なニーズに応じて提供するサービスとは、通常のサービスにさらに加えて提供されるサービスという意味ではなく、通常のサービスがさまざまな理由で受けられない利用者に対して、別の方法でのサービス提供を意味するものということです。すなわち特別なニーズを持つ利用者は、障害者サービスや多文化サービスなどの提供によって、初めて他の利用者と同程度のサービスを受けることができるわけであり、これらのサービスは不可欠なものと言えます。

寄稿 特別なニーズに応える図書館

京都ノートルダム女子大学教授 岩崎れい

特別なニーズに応えるとは？

図書館が障害者サービス（「しょうがいしゃ」の表記については議論があるが、本稿では文化庁及び国立国会図書館の方針に沿って表記する）を実施することは、入院患者や

背景にある考え方

その背景には、いくつかの土台となる考え方がありますが、ここでは2点取り上げます。

1点目は、ユネスコ公共図書館宣言に記されている公平利用の原則です。1994年の公共図書館宣言には「公共図書館のサービスは、年齢、人種、性別、宗教、国籍、言語、あるいは社会的身分を問わず、すべての人が平等に利用できるという原則に基づいて提供される。理由は何であれ、

通常のサービスや資料の利用ができない人々、たとえば言語上の少数グループ（マイノリティ）、障害者、あるいは入院患者や受刑者に対しては、特別なサービスと資料が提供されなければならない。」（日本図書館協会訳）と記されており、2022年改訂版でも、デジタルスキルや識字力が不十分な人を加え、同原則が提示されています。図書館は多様な情報をすべての人に対して公平に提供できるように、その存在意義があるわけです。

2点目は、「特別な教育的ニーズを有する子ども（Children with Special Educational Needs：SEN）」という概念です。医学上の障害等のカテゴリーで分けるのではなく、個々の子どもたちの抱える困難に合わせた教育を提供するのが望ましいという考え方で、1978年に教育関係の調査報告書である英国のウォーノック報告が初めて提唱しました。その考え方は国際的にも広まっていき、1994年には、万人への教育を提唱する「サラマンカ宣言（声明）」（ユネスコ）によって、子どもにとどまらず、すべての人を対象とする必要性があることが認識されたと言えるでしょう。

図書館の取り組みと他機関との連携

日本における取り組みでも、人々の尽力に加え情報技術もその発展を後押ししています。例えば、サピエ図書館は視覚障害等のある方々に対して、点字・デージー図書（注1）のデータ及びさまざまな情報を提供するネットワークで、図書館も加盟して、他機関と協力してサービスを実施しています。また、マルチメディアデージー（注1）は、デジタル録音図書の国際標準規格である情報システムです。

さらに、特別なニーズに応える情報サービスは、視覚障害のある方を対象としていた時代から、さまざまなニーズを対象とする時代へと変わってきました。前述のマルチメディアデージーも初めは視覚障害者のためのデジタル録音図書でしたが、現在はテキストや画像などの視覚情報も含まれ、さまざまな理由で読むことの困難な方々に有用な情報源となっています。LLブックは日本でもいくつかの出版社で手掛けているもので、名称はスウェーデン語で「読みやすい」を意味する Lättläst の2つのLからきており、ディスレクシア（注2）をはじめとして、さまざまな理由

で読むことに困難を抱える読者を想定しています。

これらの取り組みに、図書館も重要な役割を担っていますが、同時に海外を含む他機関との連携が不可欠です。公平利用の原則に基づいた、よりよい図書館サービスの提供のためにも、図書館はさらなる工夫を求められていると言えるでしょう。（けやき会員）

（注1）DAISY（デージー）－「Digital Accessible Information System」（アクセシブルな情報システム）の略。もともとは、視覚障害者のために録音テープに代わるものとして開発された。音声デージーをもとに、文字や画像を音声にシンクロさせたマルチメディアデージーもあり、さまざまな理由で読み書きに困難を抱える人にとって有効な手段となっている。

（注2）ディスレクシアー読字障害などとも呼ばれ、日本では学習障害に包含されるものと位置づけられている。

インタビュー

視覚障害者の方は、どのように本を読んでいるのでしょうか。右京区の吉川典雄さんにお話をうかがいました。

けやき：本を読むときはどのようにされているのでしょうか？

吉川：点字の本や、録音図書で本を楽しみます。録音図書などのデージー図書や点字本は、京都ライトハウス（注）で借りてきます。点字データや音声デージーデータは自分のパソコンに直接ダウンロードもできます。

けやき：本やCDといった「モノ」を借りるだけでなく、データをダウンロードすることもできるのですね。

吉川：ライトハウスが所蔵している資料だけでなく、サピエ図書館というインターネット図書館からも資料を借りることができます。サピエのサービスを利用するには、登録が必要で、登録はライトハウスだけでなく、京都市図書館でもできます。私は中途失明で、点字を読むにはまだ時間がかかるので、音声デージーを利用することが多いです。ダウンロードしたデータをUSBに入れて、専用の機械で再生して音声を聞きます。

けやき：本の種類は？

吉川：音声デイジーは 10 万点以上あります。また点字本を作ってもらって、購入することもあります。それをテキストを使って、仲間と読み合わせをしています。

けやき：勉強会のようなものですか？

吉川：はい。月 1 回ライトハウスで「点字サロン」が開かれていて、毎回 20 名ほどが集まります。そこで同じテキストを使って、一緒に読んでいきます。このような場があるのはうれしいです。

けやき：京都市図書館を利用することはありますか？

吉川：本を借りに行くことはありませんが、対面朗読のサービスを利用しています。コロナ禍で、京都市中央図書館がオンラインの対面朗読サービスを始めたので、雑誌などを読みたいときに利用しています。

けやき：どのように利用されているのですか？

吉川：事前に中央図書館に予約をしておく、音訳ボランティアの方が読んでくれます。京都市図書館所蔵の本だけが朗読の対象になります。ライトハウスでも対面朗読サービスがあり、こちらは私が持ち込んだ本でも読んでもらえます。

けやき：対面朗読のよさは。

吉川：まず、最新の資料を読むことができることです。音訳には時間がかかり、デイジー図書になるまでに、一般の図書だと半年から 1 年くらいかかります。しかし、対面朗読では出版されてすぐの本を読むことができます。また、対面朗読でないと読みにくい本もあります。

けやき：例えば？

吉川：マンガや図が多用された本です。囲碁の本などは音声で読み上げられない図解のページが多いので、対面朗読で音訳ボランティアとやりとりしながら、読んでいく必要があります。

けやき：新しい本との出会いは？

吉川：デイジー図書の人気ランキングや新着案内をチェックします。

けやき：京都市図書館でも電子書籍サービスが利用できるようになりました。音声読み上げができる作品もあるそうです。

吉川：まだ利用したことはありませんが、利用してみたいです。

けやき：便利なサービスや機器が増えているようですね。

吉川：以前に比べてソフトも充実し、機械も進化しています。しかしそれが逆に不便になることもあります。例えば、私が使っている音声再生機器は、スマホで代わりができるため、生産されなくなるそうです。ただ、私にとってはスマホより使い勝手がいいので、何とか生産を続けてほしいと要望しています。

けやき：他にも要望されていることはありますか？

吉川：行政機関などのホームページは、障害のある人でもわかりやすいように、見出しを付けたり、画像に代替テキストを付けたりしてほしいと、要望を続けています。誰でも等しく情報にアクセスできる、アクセシビリティを高めていく必要があります。

けやき：身近にある地域の公共図書館でもサービスが受けられるといいですね。

吉川：障害者にとって、慣れないところに行くことはとてもハードルが高いことです。サービスが受けられるところが近くにあれば、とても便利です。

けやき：地域の図書館にどのような機能があれば、すべての住民が使いやすいのか、これからも考えていきたいと思います。

(注) 京都ライトハウス—京都市北区にある視覚障害者のための総合福祉施設。1961 年に「盲学生のための図書館」として創立され、以来、京都の視覚障害者の生活をサポートする施設として、さまざまなサービスを提供している。

動物と話せる少女リリアーネ

けやき
の
本 棚

タニヤ・シュテプナー著 中村智子訳
学研教育出版 2010 年

この本の主人公リリアーネは、動物と

話すことができます。リリアーネは、動物の通訳をするため、動物園ではたらくことになります。

次々とおそいかかるなんもんを動物の力をかりて、解決していきます。

動物好きの人にぴったりな本です。 (小6 ふき)

No. 68

REPORT

図書館で発表会

図書館で日ごろの趣味や学びの成果を展示する「図書館で発表会」が、2月10日から3月10日まで、左京図書館で行われました。13回目となる今回は、4名の方の作品が展示されました。

ガラスケースの中に座った3匹の「ソックスベア」は、色違いの服と帽子を身につけています。この衣装、片方の靴下だけで1体分ができるとのことで、簡単な作り方の説明も添えられていました。またニットのベストやカーディガン、タペストリーも並んでおり、いずれもどれくらいの時間をかけて仕上げたものなのだろうと思う丁寧な作りでした。



図書館で発表会
展示作品

ほかにも、ロシアで暮らす日本人とタタール人夫婦についてのレポートがありました。レポートの作者は、YouTubeを見てこの夫婦の暮らしに興味を持ち、レポートにまとめたそう。気になったことを図書館の資料などを使って調べ、それをまとめる。さらにそれを図書館という公共の場に展示することで、その学びを他の人に伝える。

ウスビ・サコの「まだ、空気読めません」

ウスビ・サコ著 世界思想社 2021年

マリ共和国出身の京都精華大学前学長ウスビ・サコさんが日本で生活されている中で感じた事柄を記された本です。京都特有のものもあります。自分の「あたりまえ」が他人にとって

図書館は個人的な学びを多くの人に広げることができる開かれた場なのだと感じました。

さらに恒例となった中学生の作品展示がありました。SDGsをテーマにした総合的学習をまとめたものや歴史新聞、図書室の本を紹介するポスターなどがたくさん貼りだされました。パソコンを使った学習発表が小学校でも始まっていますが、一覧性のある昔ながらの壁新聞は見やすく、作品を見比べるとレイアウトによって印象が違うこともよくわかります。

子どもから大人まで、幅広い層の学びや趣味を知ることができた発表会でした。

(澤田)

REPORT

えほんのひろば in きょうと

2023年4月23日

「えほんのひろば in きょうと」は、子ども読書の日記念事業の一つとして2010年から「けやき」主催で開催しています（コロナ禍で2020、2021年は中止）。今年は、子ども24名、大人24名が遊びに来てくれました。

左京図書館の上階にある大会議室いっぱい、約270冊の絵本を表紙が見えるようにすべて平置きして並べています。背表紙ではなく、絵本の表紙、顔！が一堂に見渡せるのは見応えがあります。図書館司書さんや絵本学習会メンバーのおすすめ本コーナーもあります。

手に取って、読んで、気に入った本は、図書館カウンターに持っていけば借りて帰ることもできます。そして、コロナ禍以前にしていた隠れ家のような大きなテントや可愛

「あたりまえ」でないことがこれでもかとお出てきます。そして、私たちは暗黙のルールに縛られて生活しているのだなと気づかれます。空気を読むことが、時にコミュニケーションを希薄にする場合もあることを念頭におきつつ、出会いを大切にしていきたいなと思いました。

(左京図書館 岡部)

らしい小さな家は、まだ建てませんでしたが、キルティングマットを敷いて赤ちゃんコーナーを作り、スタッフが子ども達のリクエストに応じて何冊でも絵本を読むことを復活させました。午前中は赤ちゃん向け、午後は幼児から小学生向けのおはなし会もしました。赤ちゃんから大人まで、それぞれが声を上げて存分に楽しんでいる様子で、絵本の力を改めて感じました。

会場では、お父さんの胡坐の中で読んでもらう姿、家族そろって足を運び、それぞれが思い思いの本を手に取り、話をしている姿、マットの上でくつろいで絵本を読んでいる親子、お昼を挟んで午前も午後も来てくれた親子をみかけ、絵本がっつな楽しい時間と空間を味わってくれていると思いました。

そして、「これ読んで！」のリクエストに応じてたくさん読むことのできた私は、目がキラキラ輝く子ども達の表情に幸せを頂きました。ありがとうございました。来年もこの素敵な絵本の世界に多くの方が遊びに来てくださるよう活動していきたいと思います。(山口)



えほんのひろば in きょうと
おはなし会の様子

けやきの活動記録

2023年 3月～5月

- 3/30 ニュースレター特集の吉川さんへのインタビュー
- 3月中旬～ 「えほんのひろば in きょうと」チラシ配布
- 4/22 「えほんのひろば in きょうと」前日準備
- 4/23 「えほんのひろば in きょうと」開催
「おはなし会」(赤ちゃん向け、幼児・小学生向け)同時開催
- 5/12 ボランティア連絡会出席
- 5/19 ニュースレター68号、活動報告・総会案内 印刷・発送

<事務局会議><図書館とのミーティング> (主に第1金曜日)
4/7, 5/19

<図書館おたのしみ会に協力> (第4土曜日)
3/25, 4/22

<絵本学習会> (第4金曜日、3,7月は第2金曜日、8月は休み)
3/10, 4/28

<「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター活動>
(毎週木曜日 10:30～12:00)
休止中

ぼけと利他

伊藤亜紗、村瀬孝生著 ミシマ社 2022年

誰かのためを思って行動する「利他」について、お年寄りの「ぼけ」を通して考えていく。介護の現場でぼけの深まったお年寄りと接していると、相手のためにしたことが、思った通り

に受け取られないことが多くあるという。本書ではこれを「宛先が溶ける感覚」と表現する。日々ぼけに寄り添う村瀬さんと利他を研究する美学者・伊藤さんの往復書簡。表現しにくいものに対し、誠実に言葉を選んで伝えようとする二人の「手紙」が心に響く。(会員 S.A)

図書館友の会 けやき の仲間になりませんか

知りたい 調べたい 本の世界を楽しみたい

そんな私たちの望みをかなえ 一人一人の世界を豊かにしてくれる場所

それが私たちの願う図書館です

京都市左京図書館が市民みんなの図書館としていきいきとあり続けるために、私たち市民利用者は何ができるのか考え、活動したいと1999年に「けやき」を立ち上げました。図書館のスタッフとともに、左京図書館はじめ京都市図書館を支え、育てていきませんか。

次のような活動をおこなっています

であいの森

左京図書館のおたのしみ会（毎月第4土曜日 11:00）に協力。
絵本を読んだり、ブックトーク・人形劇やおはなしも。

「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター

毎週木曜日 10:30～12:00、左京図書館絵本コーナーで絵本探しのお手伝いをしたり、絵本を読んだりしています。

誰もが利用できる図書館を考える

図書館の現状を調べ学び、図書館に提案をしています。

ニュースレター編集部

友の会のニュースレター「けやき」を作成し、図書館と利用者を結ぶけやきの活動の情報を発信しています。

事務局

けやきの活動の企画提案。図書館行事に企画・協力。各グループ間や左京図書館との連絡調整を行っています。

絵本学習会

毎月第4金曜日 10:00～。取り上げた絵本をみんなで読み合い語り合う楽しい学習会です。

講演会・学習会

主催または図書館との共催で年に数回、地元の講師を中心に様々な興味深い講演会・学習会を行っています。

- ◆入会希望の方は年会費500円をそえ、下記郵便振込口座にお申し込み下さい。活動費の寄付も歓迎。

郵便振込口座 口座番号 00920-8-156914 番
口座名称 図書館友の会 けやき

- ◆入会・活動への参加などお問い合わせは下記の事務局へメールで。

- ◆図書館友の会けやきホームページをぜひご覧ください。
ニュースレターのバックナンバーも掲載しています。

けやき情報版

図書館友の会けやき 2023年度定期総会・図書館交流会

今年度の定期総会と図書館交流会を開催します。

◇日時：2023年6月16日（金）

午前10:00～10:30 総会

午前10:35～12:00 図書館交流会

◇会場：左京合同福祉センター3階大会議室

（左京図書館の上階）

図書館交流会では、左京図書館の館長さんや司書さんと左京図書館ボランティア、けやき会員が図書館の現状や日ごろの活動について話し合います。ぜひこの機会に、けやきの仲間になってください。

赤い羽根共同募金



ニュースレターは赤い羽根共同募金からの助成を受け作成しています。

編集後記

窓際のカレンダーは「夜空に輝く動物たち」と題されたもの。厚手の黒の紙に点字と墨字で暦が書かれ、銀色の点で表された星々の中に、点図の星座が浮かびます。5月は「カメレオン座」。日本からは全く見えないというその星座を、指でたどり形を想像します。このカレンダーをつくるための点字製版機は、京都の町工場で製造されているそう。数は少なくとも、必要としている人がいる。そのようなものをつくる仕事は大切だと思いました。（澤田）

「誰もが利用できる図書館をめざして、図書館の現状を調べたり、提案をする」。これはけやきが発足して間もなく取り組んだテーマの一つです。ニュースレター2号（2000年2月発行）で特集し、以来23年、変わらず大切にしている活動です。今号の特集で特別なニーズに応えることの意義と現状について関心を持っていただければと思います。（島崎）

◇けやき 第68号 2023年5月19日

◇制作 図書館友の会 けやき ニュースレター編集部
題字：吉政 富美子 デザイン：伊藤 理恵子

◇発行 図書館友の会 けやき

HP : <http://totomo-keyaki.com>

Mail : info@totomo-keyaki.com